

細谷小学校の ESD 活動

<活動の概要>

- ・地域を理解し、地域のかたがたと手を取り合って地域の環境を大切にできる子の育成を目指す。
- ・生活科や総合的な学習の時間を中心に教育課程を見直し、これまで以上に地域の自然や産業、人々の関わりを意識的に教育活動に組み込んだ。そうすることで、「ふるさと細谷」を愛する心が生まれ、地域の環境にも目が向けられ、「大好きだよ！緑いっぱいの細谷」と胸を張って言える子を育てる。

・活動の実際

① 命を見つめる活動（全校）

6月には、命について考える活動の一環として、毎年細谷いのちのプロジェクトを実施している。今年度は、講師のかたを招き、「笑顔のちから」というテーマで講演をしていただいた。大病を患った子どもとの日々を明るく前向きに過ごした様子について、写真を見せながら話してくださった。子どもたちは、困難なことがあっても、明るく笑顔で乗り越える大切さを学ぶことができた。

また、授業参観では命に関する授業を行った。3年生では、道徳「大切なものは何ですか」を取り上げ、「命の大切さ」について話し合った。「命は一つしかないので大切にしたい」といった意見が出され、子どもなりに命について考えることができた。



講演の様子

② ふるさと細谷の自然を活かした食農教育活動（全校）

学校農園で、夏野菜や冬野菜の栽培を行う。春の畑の準備には、地域の農園ボランティアのかたの協力で耕耘・畝づくりを行った。それぞれの学年で栽培する作物を決め、種や苗から育てていった。天候不順の時期があったが、概ねどの学年も豊作であった。カボチャを収穫した4年生は、学校で調理をしておいしく味わうことができた。

5年生は地域のかたから田んぼを借りて、総合的な学習として稲作に取り組んでいる。田植えから収穫まで、自分たちができることを行い、観察や世話をした。収穫した米は、五平餅にして食べる予定である。学習発表会時には、手製のポスターを貼って稲わらの販売を行い、地域や保護者のかたに喜んでいただいた。

また、全校でサツマイモの栽培を行っている。毎年、たくさんの量が収穫できるため、めいめいが家に持ち帰って食べることができる。今年は、保護者の協力を得て、たてわり班活動として「やきいもの会」を開いた。いもは子どもたちが準備をし、保護者や教員が一斗缶に入れて焼いた。焼きあがると、ほくほくしたいもをおいそうにほおぼる姿が見られた。



カボチャを調理（4年）



地域のかたと稲刈り（5年）



やきいもの会（全校）